



社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院

〒640-8158 和歌山市十二番丁45番地

TEL. 073-424-5185

FAX. 073-425-6485



ホームページ：<http://www.saiseikai-wakayama.jp/>

済生会

わかやま

NEWS

第12号 発行日：2007.9

～「基本方針」～

- 1、救急対応と急性期医療を基本に機能と特性を明確にする。
- 2、患者様の立場に立って、安全で質の高い医療を効率的に提供する。
- 3、透明性、公共性を保ち、地域社会と連携を密にし相互信頼を確保する。

— Information —

医療機能評価認定まで、そして、これから

済生会和歌山病院機能評価委員会 仲 寛



H18年9月に当院は念願の日本医療機能評価機構認定病院となりました。機能評価では病院のベッド数により審査内容が異なりますが、200～500床は、同じ水準の医療内容が求められ審査されます。200床の病院の当院にとって認定のハードルはあまりにも高く、それを乗り越えるまでの道のりは決して平坦なものではありませんでした。

H15年10月、現在地の公園前へ移転すると同時にオーダリングシステムを導入し、さらに電子カルテの導入を進め、完全電子カルテ化へと病院近代化へ脱皮する最中に機能評価を受審しました。病院が新しくなっただけで中身はどう変わったのかを問うこと、まさにそれを機能評価という第三者の目で評価してもらおうと考えたのです。審査を受けることにより、あるべき医療の姿、求められる医療の質・サービスを徹底して病院全職員に認識せしめ、体に刻み込ませるための荒療治であったのです。

全ては、井関良夫前病院長の指示の下に、『機能評価で求められる病院とは？』について勉強することから始められ、全職員の涙ぐましい汗と努力の末にH16年末に訪問審査を受けました。結果は認定保留でした。①病理解剖および病理学的検討の不足、②麻酔科常勤医の不在、③診療情報の一元化、共有化の不備、④指示伝達、指示受けの不備などの問題がクリアできませんでした。再チャレンジの猶予期間は1年間で、この間に再審査の準備を行うべく、対策を練り上げ、電子カルテ化を強力に推し進めました。再審査の直前、18年5月に東京の評価機構本部へ窓口相談に行き再審査書類に不備がないかどうか尋ねました。相談者は機構評価委員長の大道久先生でしたが、職員に不評の電子カルテ化を押し切ったことと、苦肉の策の電子指示簿の導入を大変褒めていただきました。また、専任の手術室管理責任者を任命して手術安全対策を強化したことも、次善の策ではあるが十分評価でき

ますとも云われました。結局、サーベイヤー真栄城優夫先生の再訪問審査を受け合格となりました。受審の準備を含めると3年以上にわたる長い道のりでしたが、当院職員の意識改革が一步、進んだことは間違いありません。

日本医療機能評価機構のHPには『認定証を院内に掲示することで医療に対する患者さんの信頼を向上させる』と書かれています。患者さんが病院を選ぶ時代に、このマークは非常に心強い武器になります。その一方で、マークに恥じない医療を提供せねばならない義務も生じるわけです。折角苦労して認定されても、これから先に重大な医療過誤があれば返上せねばならないのです。

さて、今、認定されて一体どう変わったのだろうか。たとえ合格しなくても機能評価を受験するだけで、改善すべき点が浮き彫りになり、職員間、職種間の連携の大切さが分かり、病院を良くしようと協力の機運が芽生えると言われます。総力を挙げてやり繰りする過程に意味があるとも言われます。全くその通りですが、受験するだけではまた元に戻ってしまいます。一方、ひとたび認定を受ければ、認定証に見合うだけの責任と義務が生じます。この点が最も変わった点で最も大事なところだと思います。責任と義務に目覚めることで高いモチベーションを維持することができ、あるべき医療の姿、求められる医療の質・サービスを提供し続けられると考えます。この意識改革こそが病院機能評価の結果得られた最も大事なものであると考えます。これからも一人一人が認定証の重みを実感しながら、地域社会に親しまれ、信頼され、働きがいと誇りを持てる病院を目指し、質の高い医療を提供していきたいと存じます。



4階東病棟のご紹介

看護師長 堀永 和美

当病棟は平成19年1月10日の病棟編成以降、37床の消化器科のみの単科病棟で、平均稼働率94.4%と院内で最も稼働率が高い病棟です。病棟の特殊性としては、肝細胞癌（HCC）を中心とする慢性期疾患が多く、同病名で入退院を繰返し入院することに症状が悪化、ターミナル期へ移行するケースが多いため、患者本人・家族へ心身共にサポートすることが必要です。

病棟編成直後はベッド数の増加や動線の不慣れ等で業務が繁雑で残務も多く、「スタッフが倒れたらどうしよう」といつも川口部長と口論しつつ、「どうにか大きな事故もなく半年が過ぎたね」と協力しながら現在に至っています。

- ① 自立した受持ち看護師をめざす
- ② チームで機能することができる
- ③ 心身ともに自己の健康管理ができる

上記を当病棟の看護目標としてがんばっています。さらに「1番稼働率が高い病棟だからこそ、はつらつと、誇りをもって！」を今年のキャッチフレーズとして、個々のスタッフの個性を最大限に発揮し、いきいきと看護ができる様に成長し続けたいと考えています。



ご存じですか？

外科部長 重里 政信

毎週火曜日の外科外来を高垣有作医師が担当されています。高垣先生は和歌山県で唯一のリンパ浮腫専門治療医で、和歌山市内では当院のみで診察されています。先生は同時に和歌山県で数人しかいない日本心臓血管外科学会専門医でもあり、手術にも参加して頂いています。高垣先生からのリンパ浮腫についてのメッセージをお伝えします。



リンパ浮腫とは、乳がんや子宮がんの手術、放射線治療後に手や足が腫れてくる病気で、腫れによって動きが重くなったり、炎症をおこして赤くなったり、熱が出たりします。

残念ながら、根本的な治療法はありませんが、下記の治療を行うことによって、手や足の腫れを軽減して日常生活での不具合を解消することは十分可能です。

治療法は、予防のための生活指導と手足に溜まったリンパ液を正常なリンパ管に導き吸収させるリンパドレナージ、（このリンパドレナージは通常のスポーツリンパドレナージとは全く異なる医学的な手技で、正しい方法で行わなければ、効果がないばかりか、症状を悪化さす可能性があり、注意が必要。）リンパ液の溜まりをできるだけ抑えるための特殊なストッキングの着用、特殊な包帯で手足を圧迫し運動する方法を組み合わせで行います。



高垣有作 医師

そして、正しい手技を患者様に指導し、最終的には自身で治療ができるようにします。

済生会和歌山病院では、リンパ管だけでなく、他の血管の病気も含めて、総合的に診断、治療が可能です。

市民公開講座のお知らせ

無料健康相談も同時開催

日時 平成19年11月23日(金) 12:30~16:00(予定)

場所 済生会和歌山病院 7階

患者さま・ご家族さまなど、一般の方々も参加頂けます。
参加費用は無料です。



石井内科 石井 亨先生

私は昭和44年に和歌山県立医科大学を卒業し病理学を専攻しました。

その後、新生町にあった済生会和歌山病院で井関良夫先生の御指導を頂き、内科臨床研修を受けさせて頂きました。井関先生には内科診療は元より、数多くの有益な御指導を受け今も感謝しています。

当時より各診療科の先生方の連携プレーは大変スムーズに行われており、新入りの私には大変勉強になりました。また私的なところでは整形外科部長で居られた穴原克弘先生から教えて頂いた“ボンゴレ・スパゲッティ”も今では懐かしい思い出の味となっています。

現在私は、22年前に和歌山大学近くで内科診療所を開院し診療を行っています。

これと云った特徴のない診療所ですが「患者さんの立場に立った診療」を心掛けています。先日、私自身の健康診断を済生会和歌山病院でお願いしたところ、スタッフ皆様の対応、連携プレーが大変良く、引き続き患者さんの紹介をさせて頂こうと思いましたが、今後とも宜しくお願い致します。

最後に済生会和歌山病院の益々のご発展を願っております。

濟生会和歌山病院外来診療予定表

(平成19年9月1日より)

	内科・糖尿病代謝内科・消化器科			循環器科	放射線科	脳神経外科		外科・心臓血管外科		整形外科		リハビリテーション科	耳鼻咽喉科	胃センター	眼科	皮膚科
	2診	3診	4診			7診	8診	8診	9診	13診	14診					
月	午前 山原邦浩	文野真樹	梅田恭史	木村桂三	—	仲寛	乾芳郎	—	重里政信	延與良夫	北野岳史	担当医	上野ゆみ	半羽慶行	大川詔羊美	国本佳代
火	—	—	江川公浩	大鹿裕之	—	中川真里	—	高垣有作	平井慶充	船岡信彦	下江隆司	担当医	上野ゆみ	半羽慶行	大川詔羊美	—
水	午前 山原邦浩	川口雅功	荒古道子	尾鼻正弘	野村尚三	乾芳郎	—	—	重里政信	新患診		担当医	森山智美	半羽慶行	大川詔羊美	—
木	午前 井関良夫	梅田恭史	江川公浩	木村桂三	—	仲寛	林靖二	—	駒井宏好	松崎文作	北野岳史	担当医	上野ゆみ	半羽慶行	大川詔羊美	山本有紀
金	午前 川口雅功	文野真樹	荒古道子	大鹿裕之	—	林靖二	—	駒井宏好	中村恭子	船岡信彦	延與良夫	担当医	上野ゆみ	半羽慶行	宮崎賢一	—

※内科 井関 (一般) 川口 (肝/消化器)
 江川 (糖尿病・代謝) 文野 (肝/消化器)
 荒古 (糖尿病・代謝) 山原 (肝/消化器)
 梅田 (糖尿病・代謝)

【受付時間】 午前 (全科) 8時45分～11時00分
 (但し、予約患者さまは除く)

*土曜日は休診ですのでご注意ください。

地域医療連携室から

地域医療連携室主任 上野山 勝代

平素は地域医療機関先生方の多大なるご協力の下、濟生会和歌山病院では患者さんを中心に地域完結型医療を目指し病診連携に努めています。

今後、より一層連携を進めていくうえで“連携パス”が不可欠ではないかと考え、診療所の先生方を交え“疾患別連携パス”の作成を考えています。

つきましては疾患別の勉強会・研究会などの開催時はご尽力頂けるよう、よろしくお願い致します。

【地域医療連携室利用紹介患者数】

平成19年4月…221件 5月…204件 6月…280件 7月…209件
 のご利用頂きありがとうございました。

研修会

●第29回和歌山東臨床研究会 ●

日時：平成19年10月6日(土)

15:00～17:00

場所：濟生会和歌山病院 講堂 (7階)



診療案内

診察日：月～金曜日

受付時間：午前8時45分～午前11時 (但し、予約患者様はこの限りにありません)

休診日：土・日・祝祭日 (年末年始)

面会時間：月～金曜日 午後2時～午後7時 土・日・祝祭日 午前10時～午後7時



交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187